

説教余滴 2019年9月8日、ハリケーン・ドリアン

日本は台風が襲来する国。こちらがお願いして、来て頂いているはずはありません。

アメリカは、同様にハリケーンの国。東海岸を東から襲います。とりわけメキシコ湾岸一帯を襲う時、被害が大きくなります。

2005年8月29日、アメリカ南部ルイジアナ州などをハリケーン・カトリーナが襲いました。8メートルに及ぶ巨大な高潮が、海拔0メートル地帯に押し寄せ、死者・行方不明者数が1,800人を超す大災害となりました。米国南部の沿岸地帯五州のうちルイジアナは中央に位置します。40年以上以前、このあたりを訪問したことがあります。海岸から水路が通っていて、そこに住宅が建ち並んでいます。退職した年金生活者のものだそうです。アメリカ人は、退職して温暖な南部ガルフコーストで生活することを夢見る、と聞きました。ここにもアメリカン・ドリームがあります。

驚いたことがあります。このあたり一帯の住宅は、水路に近く、釣りや銚を使って魚とりをするそうです。元気な人はボートを使います。

ここでの驚きは、あまりにも水害に対して無防備なこと。日本なら、海岸の防潮堤、水門、水路脇宅地のかさ上げ、その他が求められるでしょう。個人主義の米国では、そうしたことも自己責任なのではないでしょうか。

ハリケーン・ドリアンは5日現在、5段階中下から2番目の「カテゴリー2」の勢力を維持したまま、米東海岸のジョージア、サウスカロライナ、ノースカロライナの各州を脅かしています。ハリケーンのため、5日現在20名の死者を確認。

グローバルな時代のはずです。日本の台風15号の情報は米国では流されないでしょうね。

ハリケーン・ドリアンのニュースが私たちには余り知らされないように。

世界の気象が大きく変化している現代です。自国だけのことではありません。情報を共有し、違いを学び、災害に対処しようではありませんか。